

申7号 2017年度 年末手当 第2回交渉①

営業収益は6期連続増、第2四半期決算として過去最高実績！
好調な業績を支えたのは組合員の奮闘！
会社は逃げることなく満額回答を！！

会社

・好調な決算は、GWやお盆が順調だったこと、インバウンドが引き続き好調だったことなどによる。各職場での社員一丸となった努力・取り組みに感謝している。

- ・生産年齢人口の減少、景気の先行きが見通せない情勢などを勘案する必要がある。
- ・この4年間連続でベアを実施してきており、さらに今年は管理手当・扶養手当も引き上げた。エルダー社員の本体勤務枠拡大も待っている。年末手当を考える上で、上期の業績は重視するが、総人件費管理の視点から総合的に判断する必要がある。

組合

・新幹線大規模修繕引当金 120 億円（半期分）を差し引いても営業利益は増加したのは歴然とした事実。申し入れ額は極めて合理的。

- ・グループ会社を含めた現場第一線の組合員全員の苦労や汗が好決算に結びついた。
- ・現場力が落ちている。経営と現場の認識に隔たりがあり、現場を知らずに出される施策や事故対策が後手後手になっている。もっと現場目線で考えるべき。
- ・前回年末手当の団体交渉で「エルダー社員の本体勤務枠拡大で人件費が増える」や、「効率化施策を進めていく」など説明された。エルダーの議論では規模感や労働条件が明らかにされない中で、何を根拠に増えるという回答なのか？また、そもそも施策の議論を年末手当に持ち込むべきではないと昨年の交渉でも指摘した。
- ・株主還元だけではなく、人材が重要で、社員を宝であると自覚するならモチベーションを上げるためにも満額回答を強く求める。



世界一の鉄道会社を目指すなら
鉄道業界を牽引する回答を！！

次号につづく

申7号2017年度 年末手当 第2回交渉②

各部会・系統から職場の声を会社にぶつける!!

営業

- ・駅では非番で各種委員会、マイプロが当たり前のようにになっている。勉強会は非番でしかできない。非番で運転適性検査を受け不適合となった組合員もいる。
- ・VPではGS採用停止で要員が足りず、要員不足を理由に閉店した店舗もある。
- ・適正な要員配置と満額支給で組合員の労に報いるべきだ。

運車

- ・要員削減や過度な効率化ばかり進められるが、そのゆがみが様々現場に現れている。
- ・休日返上で勤務しなければ職場が回らない異常事態だ。職場の努力で運休を発生させず、安定輸送を確保していることを強く認識すべきだ。
- ・言葉だけではなく、組合員の努力の結果得た収益はしっかり社員に還元するべきだ。

工務

- ・設備事故防止のため、天候に関係なく、昼夜を問わず検査・修繕・工事をを行い健全な設備の維持を通じて安全安定輸送の下支えを行っている。
- ・組合員は新たな技術も習得し、現場や巡視で設備の勘所も身につけながら頑張っている。

かんい

- ・鉄道業の根幹を成すものは「安全・安定輸送のレベルアップ」であり、常に存在している危険を回避し鉄道の安全を保つために現場は汗し努力している。
- ・最新鋭のシステムを導入しても最後に扱うのは人であり、仕事の「本質」が理解できるような教育・訓練と同時に、人の気持ちや痛みの分かる社員育成が重要だ。

きかく

- ・スピード感を求められ、その期日を守ろうとするあまり、1人で2倍以上の仕事を抱えている組合員もいる。そんな状況から将来の不安を抱き、前向きになれない現実がある。
- ・施策が多く、時間外労働と負担は増え続けている。苦勞している組合員に満額回答を!!

医療

- ・慢性的な要員不足の中で、社員の健康そして地域の医療を支えるために日々全力で取り組んでいる。
- ・「健康」という労働者の屋台骨を支える医療職場で働く組合員の日々の努力を評価し、その努力に報いた回答で組合員に還元すべき。

建設工事

- ・決算短信にも書かれている新宿ミライナタワーやグランスタ丸の内、ホテルメトロポリタン仙台イーストやエスパルなど、この好調な決算を支えているのは、組合員がタイトな工程の中、昼夜を問わず必死になって取り組み完成させた成果である。
- ・将来の成長に向けても設備投資を根幹から支え、新たな計画を必死に担っている。

青年部

- ・どの職場でも少ない要員の中、休日出勤や深徹で若手組合員は奮闘している。新人の教育を所定時間内に行い、自分の仕事を超勤で行っている現実もある。
- ・事故の際にはお客さまからの罵声を浴びながらも奮闘しており、この奮闘が好調な決算に繋がっている。モチベーションをこれ以上上げさせないためにも満額回答を。

会社は組合員の奮闘にしっかり応えるべき!
全職場からたたかいをつくりだそう!

